

テーマ：『 育てよう、感じよう、自然が大好きな児童の育成 』

厚木市立 厚木第二小学校

Tel. 046-228-0690

担当者： 比留川 洋子



■実践内容:

厚木第二小学校では、各学年が生活科・理科・総合的な学習の時間などを中心に、植物を育てる体験を行っている。その中で5年生は年間を通じて“見つめよう食・考えよう環境”というテーマで活動をした。主な実践は、①米についての調べ活動②米作り③食と環境について考える、の3つである。

米についての調べ活動では、1学期に米の品種や栄養、米作りの方法など、1人ひとりが「米」についての課題を持ち、追求した。また、2学期には、田植えや草取りなど1学期の体験をもとに米作りについて調べたことをまとめた。米作りに関する体験としては、1学期には、代かきを見学したり田植えや草取りをし、2学期には、かかしを作ったり、稲刈りをしたりした。3学期には、収穫祭を開きお米で餅作りをする。今後、調べ学習や体験をもとに、例えば、「食材の問題点」「未来の食生活」などの課題を持ち、自分たちの食と環境について考えていきたい。さらに、学年の終わりには食についての環境会議を学級で開き、“見つめよう食・考えよう環境”というテーマについて追求していく。

■実践成果:

5年生の活動の1つめの成果は、自然とふれあい意欲的に活動することで児童が自ら課題を見つけ出すきっかけを作ることができたことである。本校の周辺は、自然が少なく児童が自然と触れ合う機会を持ちづらい。本実践によって、児童は、自然に親しむ機会を持つことができた。自然に親しむことで、児童は、自ら課題を見つけ出し意欲的に課題について追求することができた。例えば、1学期に代かきの見学に行ったときには、「代かきは、どうしてするんだろう」「代かきをすると鳥が集まってくるのはなぜだろう」「機械がないときには、どのようにして代かきをしていたのだろう」などという疑問を持ち、自発的に調べていた。2つめの成果は、米作りの方法や、育てるときの工夫や努力について具体的な体験を通して知ることができたことである。子どもたちが田んぼに行き、自らの感覚で見て、聞いて、感じることによって自然の事物・事象についての理解をより確かな物とするとともに、自然に対する興味・関心を高めることができた。

また、本校では今年度から生活科・理科の研究を始めることになり、その一環として夏季休業中に地域の郷土資料館の学芸員さんを講師に招き、校内の動植物の観察の方法についての職員研修を行った。研修で学んだことを生活科や理科の学習指導で活かし、さらに、生物教材に限らず生活科・理科全般に研究を広げ、児童の興味を広げることに繋がった。

実践ポイント:

実践にあたっては、児童が実際に自然とふれ合い、その中から新たな課題を見つけたり、前もって調べたことを実際の体験に活かしたりすることができるように心がけた。また、校内の樹木園・雑草園などの身近な自然を授業で有効に活用することもポイントである。